参考資料１

徳島市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書
概要版

令和８年４月

徳島市

目次

Ⅰ　調査概要 2
1　調査目的 2
2　調査設計 2
Ⅱ　調査結果の概要 1
1　評価項目別のリスク判定結果 1
（1）運動器の機能低下 1
（2）転倒リスク 1
（3）閉じこもり傾向 2
（4）低栄養状態 2
（5）口腔機能低下 3
（6）認知機能の低下 3
（7）うつ傾向 4
2　認知症や介護予防について 5
（1）認知症になっても安心して暮らせる街づくりについて 5
（2）介護予防等に関する取り組み状況 6
3　終末期の療養について 7
（1）終末期の療養場所について 7
4　介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について 8

Ⅰ　調査概要

1　調査目的

本調査は「第 10 期徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆さまの日頃の生活や介護の状況などを把握し、基礎資料とするために実施するものです。

2　調査設計

（1）調査対象　　６５歳以上の徳島市在住の高齢者より無作為抽出（要介護１～５以外の方）
（2）実施期間　　令和７年１２月１日～１２月２２日
（3）調査方法　　郵送による配布・回収
（4）配布・回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回答率
3，395	2，110	2，095	61．7%

Ⅱ　調査結果の概要

1　評価項目別のリスク判定結果

（1）運動器の機能低下

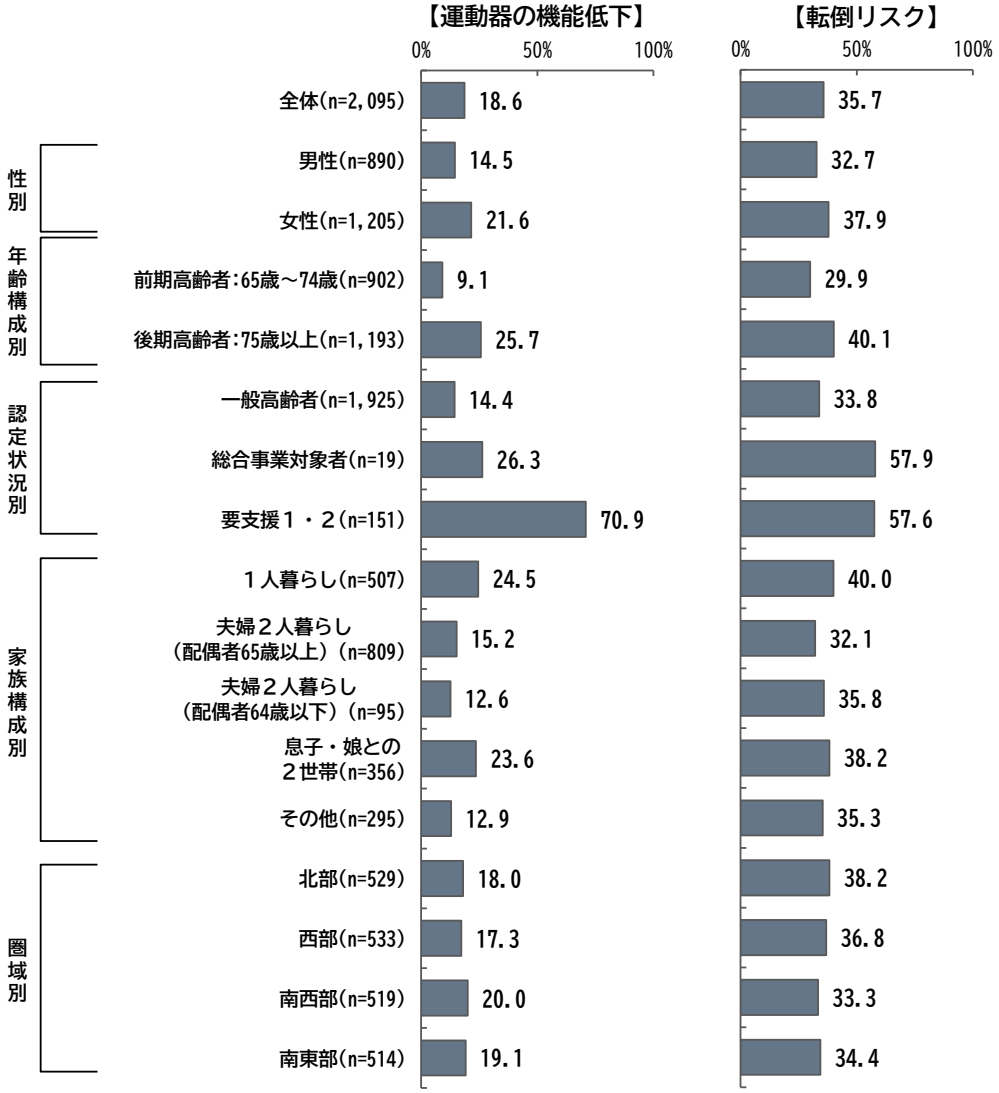
性別にみた該当者の割合は、女性が男性を 7.1 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が、前期高齢者を 16.6 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、一般高齢者および総合事業対象者と要支援１・２とで大差がみられます。家族構成別にみた該当者の割合は、１人暮らし、息子・娘との２世帯が２割を超えています。圏域別にみた該当者の割合は、南西部が 20.0％と最も高くなっています。

（2）転倒リスク

性別にみた該当者の割合は、女性が男性を 5.2 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が前期高齢者を 10.2 ポイント上回っています。認定状況別にみた一般高齢者と総合事業対象者および要支援１・２とで差がみられます。家族構成別にみた該当者の割合は、１人暮らしが 40.0％と最も高くなっています。圏域別にみると、北部が 38.2％と最も高くなっています。

図表 1　運動器の機能低下・転倒リスクの該当者の割合

（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



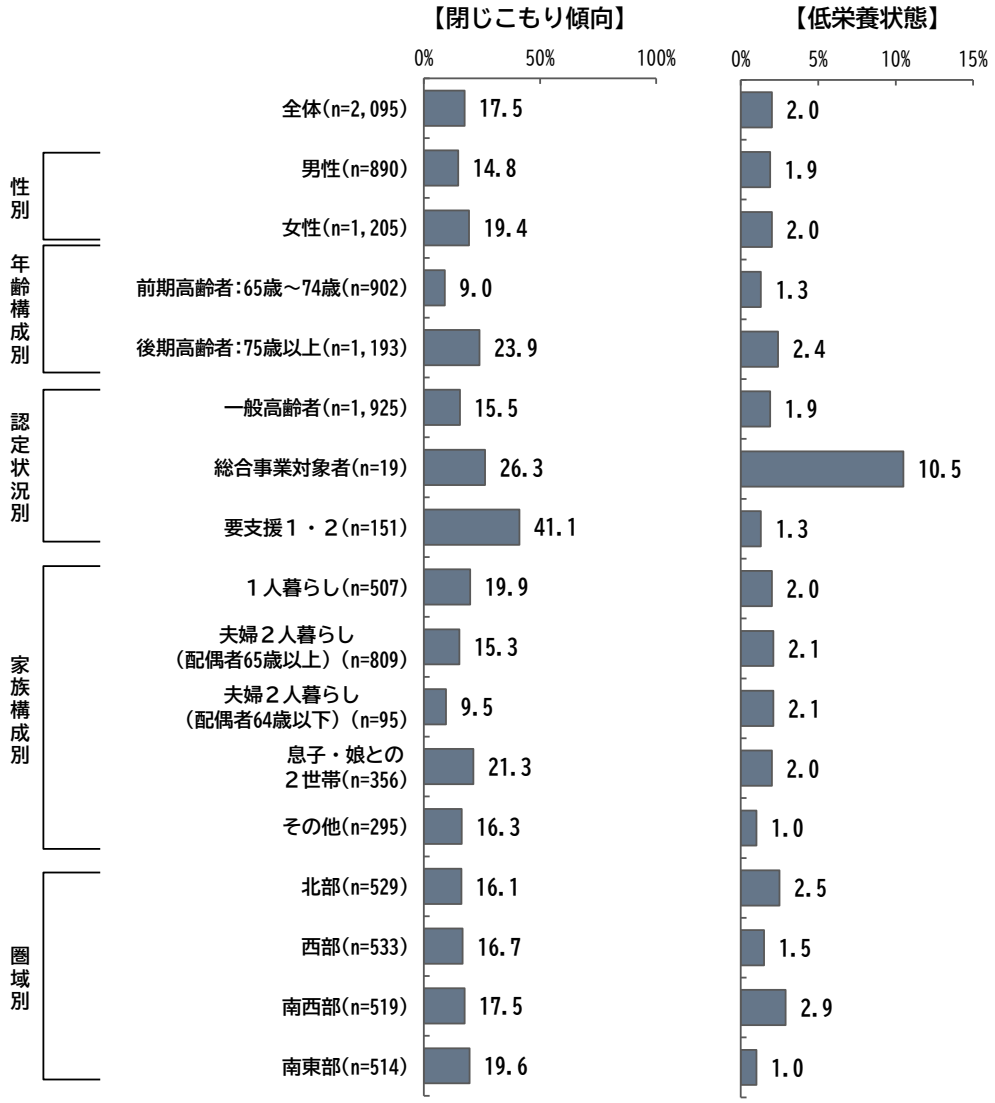
（３）閉じこもり傾向

性別にみた該当者の割合は、女性が男性を 4.6 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が前期高齢者を 14.9 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が 41.1%と最も高くなっています。家族構成別にみた該当者の割合は、息子・娘との２世帯が 21.3%と最も高くなっています。圏域別にみた該当者の割合は、南東部が 19.6%と最も高くなっています。

（４）低栄養状態

性別にみた該当者の割合は、女性が男性を 0.1 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が、前期高齢者を 1.1 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が 10.5%と最も高くなっています。家族構成別にみた該当者の割合は、夫婦２人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず 2.1%と最も高くなっています。圏域別にみた該当者の割合は、南西部が 2.9%と最も高くなっています。

図表 2　閉じこもり傾向・低栄養状態の該当者の割合
（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



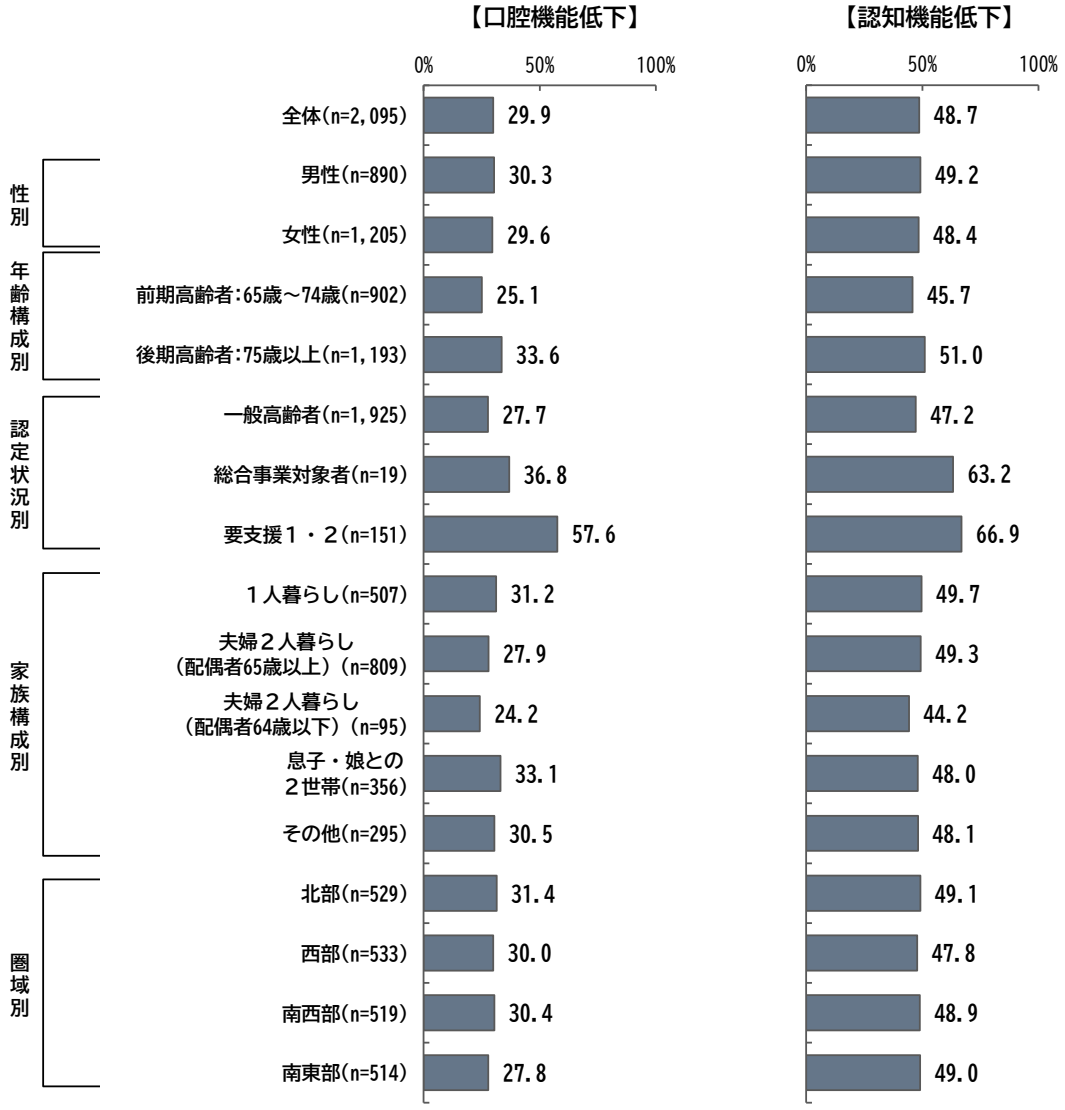
（５）口腔機能低下

性別にみた該当者の割合は、男性が女性を 0.7 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が、前期高齢者を 8.5 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が 57.6％と最も高くなっています。家族構成別にみた該当者の割合は、息子・娘との２世帯が 33.1％と最も高くなっています。圏域別にみた該当者の割合は、北部が 31.4％と最も高くなっています。

（６）認知機能の低下

性別にみた該当者の割合は、男性が女性を 0.8 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が前期高齢者を 5.3 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、要支援１・２が 66.9％と最も高くなっています。家族構成別にみた該当者の割合は、１人暮らしが 49.7％と最も高くなっています。圏域別にみた該当者の割合は、北部が 49.1％と最も高くなっています。

図表 3　口腔機能低下・認知機能低下の該当者の割合
（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）

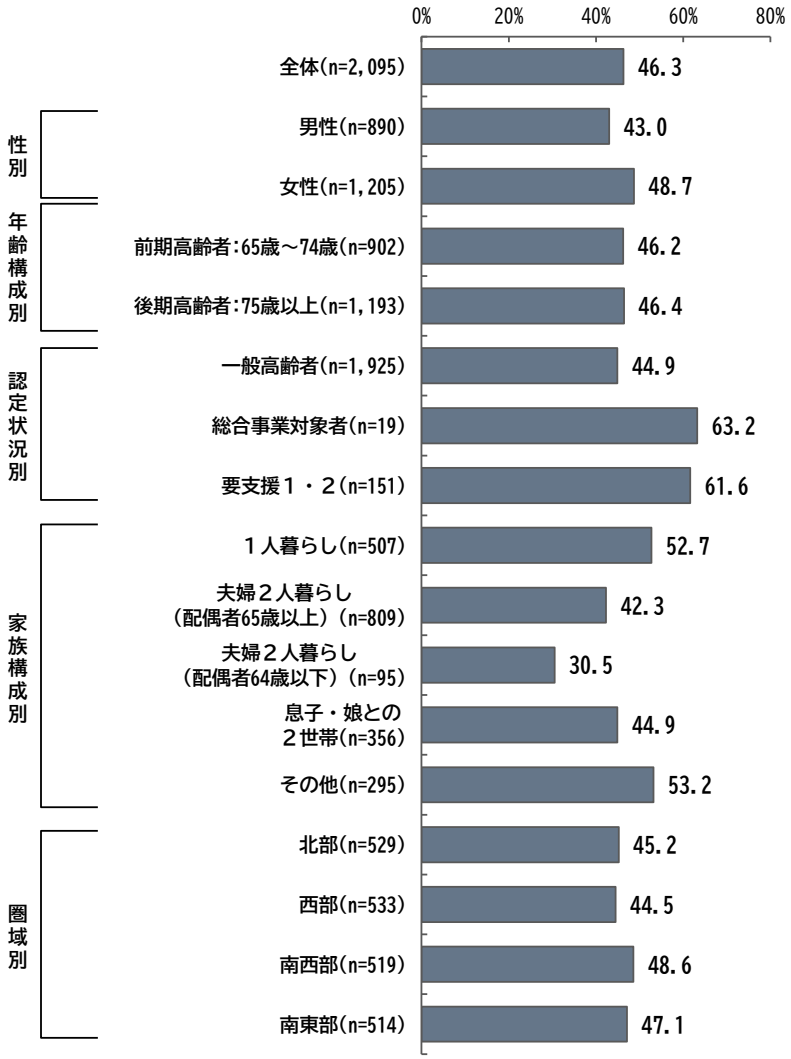


（7）うつ傾向

性別にみた該当者の割合は、女性が男性を 5.7 ポイント上回っています。年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者が前期高齢者を 0.2 ポイント上回っています。認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が 63.2%と最も高くなっています。家族構成別にみた該当者の割合は、１人暮らし、その他が５割を超えています。圏域別にみた該当者の割合は、南西部が 48.6%と最も高くなっています。

図表 4　うつ傾向の該当者の割合

（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



2　認知症や介護予防について

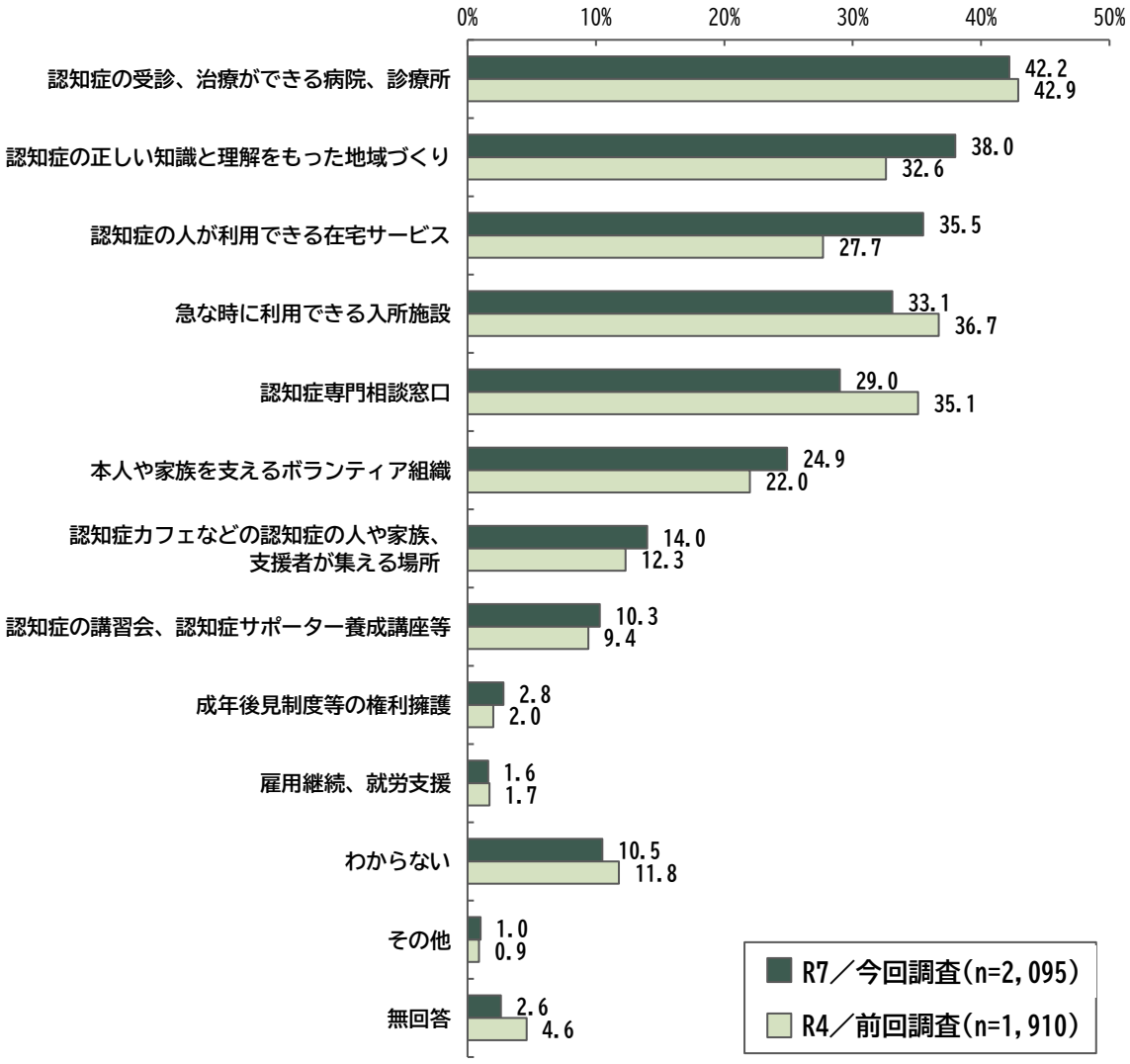
（1）認知症になっても安心して暮らせる街づくりについて

問　今後どのようなことを充実すれば、認知症になっても住み慣れた街で安心して暮らしていくことができると思いますか。（特に必要と思うものを３つだけ）

認知症になっても安心して暮らすために充実すべきことについてみると、「認知症の受診、治療ができる病院、診療所」が 42.2％と最も高く、次いで「認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり」（38.0％）、「認知症の人が利用できる在宅サービス」（35.5％）となっています。

前回調査と比較すると、「認知症の人が利用できる在宅サービス」が 7.8 ポイント増加し、「認知症専門相談窓口」が 6.1 ポイント減少しています。

図表 5　認知症になっても安心して暮らすために充実すべきこと（全体、前回比較／複数回答）

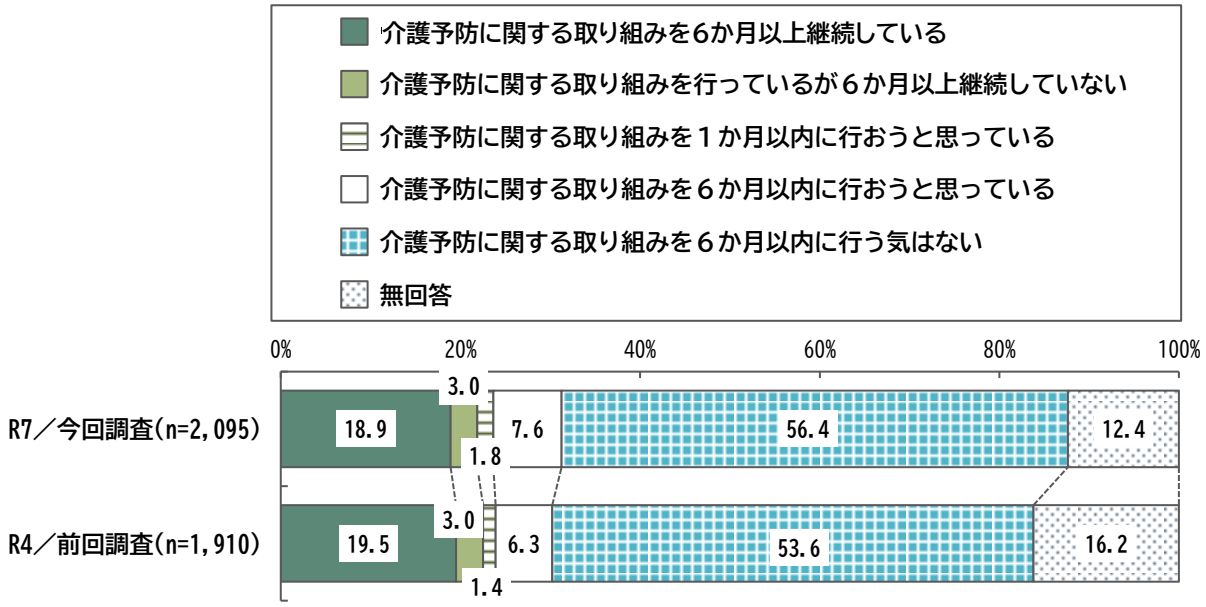


（２）介護予防等に関する取り組み状況

問　現在、介護予防に関する取り組みを行っていますか。（１つだけ）

介護予防に関する取り組み状況をみると、「介護予防に関する取り組みを６か月以内に行う気はない」が56.4%と半数以上を占めており、前回調査と比較すると、2.8ポイント増加しています。

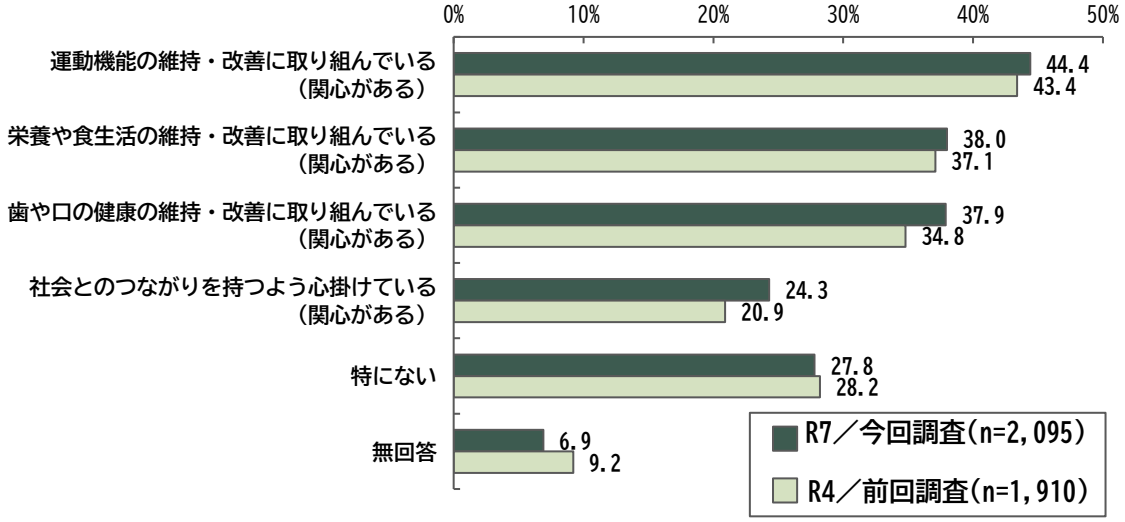
図表 6　介護予防に関する取り組み状況（全体、前回比較）



問　「フレイル」を予防するには栄養・運動・社会参加が重要とされていますが、取り組んでいる分野や関心がある分野はありますか。（いくつでも）

フレイル予防に関する取り組み状況についてみると、「運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が44.4%と最も高く、前回調査と比較すると、「特にない」を除くすべての項目で増加しています。

図表 7　フレイル予防に関する取り組み状況（全体、前回比較／複数回答）



3　終末期の療養について

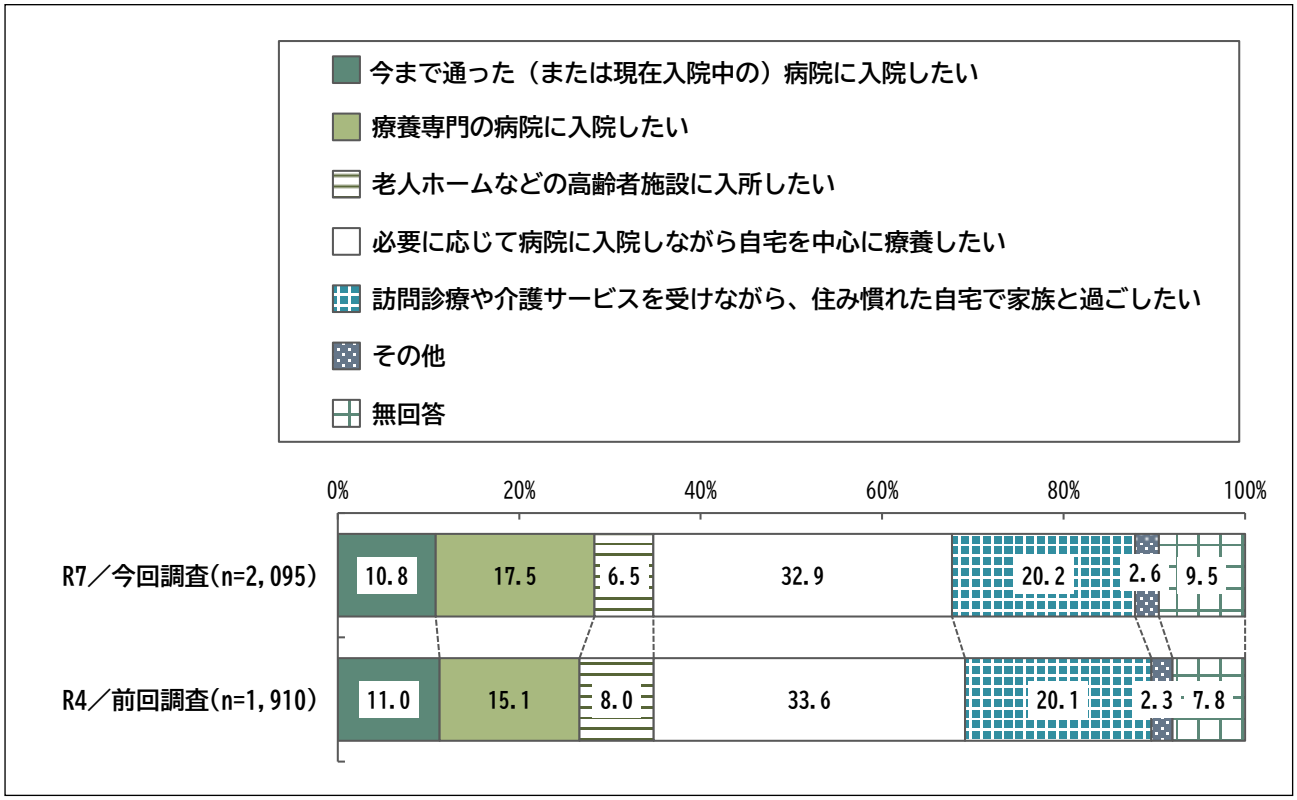
（1）終末期の療養場所について

問　終末期の療養はどのような場所を希望しますか。（1つだけ）

終末期における療養場所の希望をみると、「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」が32.9%と最も高く、次いで「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」（20.2%）、「療養専門の病院に入院したい」（17.5%）となっています。

前回調査と比較すると、「療養専門の病院に入院したい」が2.4ポイント増加しています。

図表 8　終末期における療養場所の希望（全体、前回比較）



4　介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について

問　地域ケア推進担当の事業で今後、特に力を入れてほしい事業をお答えください。（いくつでも）

特に力を入れてほしい地域ケア推進事業についてみると、「配食サービス事業」が 40.1％と最も高く、次いで「高齢者見守り事業」（34.6％）となっています。

前回調査と比較すると、「高齢者見守り事業」が 6.6 ポイント増加しています。

図表 9　充実を希望する地域ケア推進事業（全体、前回比較／複数回答）

